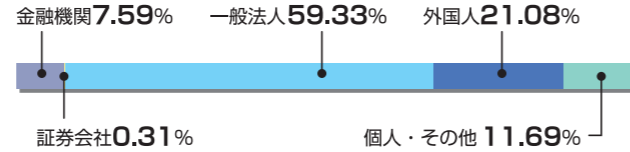


株式の概況 (2016年3月31日現在)

■株式の状況



■所有者別株式分布状況



■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
アルプス電気(株)	8,263	46.7
ピーシーエイフォーファイナリティー0-プライストストックファンド*	1,552	8.8
TDK(株)	1,402	7.9
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	441	2.5
アルパイン(株)	396	2.2

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

会社情報 (2016年3月31日 現在)

社名 株式会社アルプス物流 (証券コード 9055)
 英文社名 ALPS LOGISTICS CO., LTD.
 本社所在地 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1756
 電話番号 045-531-4133 (代表)
 設立 1964年7月2日
 資本金 23億4,904万円
 社員数 (連結) 5,304名 (単独) 785名
 運行車輛数 (連結) 3,123台 (単独) 613台
 倉庫面積 (連結) 739,583m² (単独) 247,732m²

物流個性 ●ホームページURL <http://www.alps-logistics.jp/>
 ●IR情報URL <http://www.alps-logistics.jp/jpn/ir/index.html>
お客様のための、最適物流を。

【株式分割実施のお知らせ】

株主の皆様には既にご案内の通り、当社株式の取引活性化を目的に、2016年4月1日付けで1株につき2株の株式分割を行いました。
 これに伴い、発行済株式総数は35,474,400株となりました。なお、発行可能株式総数、資本金につきましては変更ありません。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 (連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11
 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第2部
 公告方法 電子公告

【ご注意】・住所変更等のお手続きは、口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせ下さい。
 ・特別口座に記録された株式に関するお手続き、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

株式会社アルプス物流

2016年3月 本決算

IRレポート

2015年4月1日から2016年3月31日まで

IR REPORT

株主の皆様へ

初夏の候、株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年度の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2015年度におきましては、引き続きグローバル・ネットワークの拡充や新市場への拡販による取扱貨物量の拡大、また生産性の向上など体質強化を推進してまいりました。業績面では、国内・海外とも売上・利益を拡大し、前期比、計画比とも増収増益を達成し、第2次中期経営計画を締めくくることができました。

そして、2016年度から新たに3ヶ年の第3次中期経営計画をスタートさせました。連結売上高1千億円の達成と、更なる成長に向けた事業基盤の強化を進め、「グローバル成長」を加速させてまいります。

一方で、年明け以降の世界経済は厳しさを増しております。まずは2016年度、しっかり結果を残せるよう役員・社員一丸となって、取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

白居 賢

当期の連結業績実績及び次期の連結業績予想

(単位：百万円、率：前期比増減)

2016年3月期(実績)		2017年3月期(予想)	
売上高	93,818 (9.3%) ↗	売上高	94,500 (0.7%) ↗
営業利益	4,857 (9.0%) ↗	営業利益	4,900 (0.9%) ↗
経常利益	5,065 (3.9%) ↗	経常利益	4,950 (△2.3%) ↘
親会社株主に帰属する当期純利益	2,741 (7.7%) ↗	親会社株主に帰属する当期純利益	2,780 (1.4%) ↗

連結業績の概況 (2015年4月1日～2016年3月31日)



昨年増築した群馬営業所2号棟倉庫

電子部品の荷動きは、期前半は、車載やスマートフォン向けの活用により堅調に推移しましたが、秋口以降は鈍化傾向となりました。当社グループでは、重点戦略として、①取扱貨物量の拡大に向けたグローバル拡販体制の強化、ネットワーク拡充など戦略投資の実行、②事業体質強化に向けた「現場革・進」の加速、③顧客の立場に立った「品質と信頼の販売」を推進し、グローバルにビジネスの拡大を図ってまいりました。連結売上高は、前期比9%増収の938億円に、連結営業利益は9%増益の48.5億円となりました。

▼電子部品物流セグメント

グローバルに連携した提案型営業を推進し、国内に加え、海外も中国、アセアン、東アジア、欧米の全地域で売上を拡大し、10%の増収となりました。また、北上、郡山、韓国・光州で倉庫を建設するなど将来の成長に向けた戦略投資を行いました。

▼商品販売セグメント

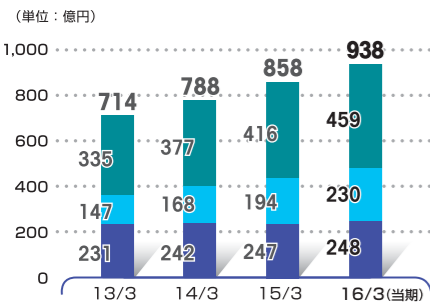
主に電子デバイスの販売が、海外顧客の車載関連の生産拡大に伴い売上を伸ばしたことにより、18%の増収となりました。

▼消費物流セグメント

消費物流の(株)流通サービスでは、強みを活かした分野への事業集中に取り組んだことにより、1%の増収にとどまりました。

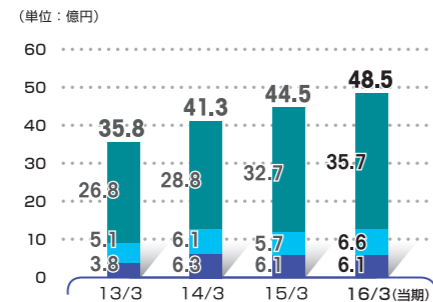
売上高

■ 電子部品物流事業
■ 商品販売事業
■ 消費物流事業



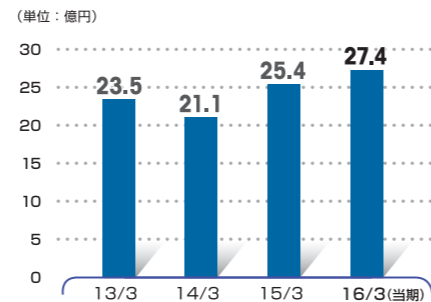
営業利益

■ 電子部品物流事業
■ 商品販売事業
■ 消費物流事業



*当期より利益の算定方法を変更しており、15/3期も新基準で算定しております。

親会社株主に帰属する当期純利益



トピックス



第3次中期経営計画がスタート

当社グループでは、この4月より3ヶ年の第3次中期経営計画(2016～2018年度)をスタートしました。グローバル化、取扱の高度化、効率化、環境対応など、お客様毎の多様なニーズにお応えする「最適物流」を追求してまいります。以下の方針を着実に実行し、計画の達成、そしてこれまで推進してきたグローバル成長を加速してまいります。

基本方針

お客様毎の「最適物流」を追求し グローバル成長を加速

- ・連結売上1,000億円の達成
- ・次の飛躍に向けた事業基盤の強化

事業方針

- GTB Get the Business 「新領域」への挑戦
- GTP Get the Profit 現場革・進と基盤強化
- GTC Get the Confidence 競争優位性の拡大



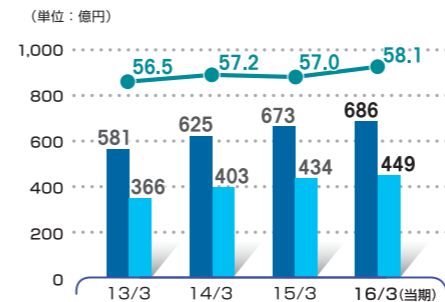
ASEANでの拠点展開進む

当社では、アセアンを重点エリアの一つとして、ネットワークの拡充に取り組んでおります。シンガポール、マレーシア、タイの既存拠点の拡充を進めるとともに、昨年10月にベトナム・ハノイで、本年4月にフィリピン・マニラで駐在員事務所をそれぞれ開設しました。将来の現地法人設立も視野に入れつつ、マーケティング活動や、現地進出企業との関係強化を図ってまいります。



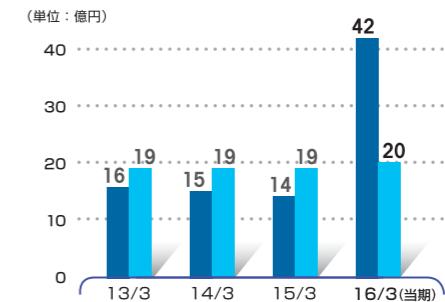
財政状況

■ 総資産
■ 純資産
● 自己資本比率(%)



設備投資・減価償却費

■ 設備投資
■ 減価償却費



ROE・ROA

● ROE
● ROA

